

## 式 辞

六年生の皆さん、そして保護者の皆様、卒業おめでとうございます。令和最初の卒業式をこのような形で挙行しますのは、残念ではあります。が、予想しなかったアクシデントに出会うことは私たちの日常や、長い人生においては特別なことではありません。たとえこの場にはいなくても、北っ子として共に過ごしてきた在校生も、皆さんを見守って下さったスクールガードさん、キタザニアや夏祭り、子どもカフェなどで、いつも皆さんを支えて下さるまちづくり協議会の方々、読み聞かせボランティアきらきらさんも、皆さんの卒業を祝い、これからの活躍を楽しみにしています。みなさんは胸を張って、二見北小学校を巣立って行ってほしいと思います。

さて、皆さんは、修学旅行においても、台風による新幹線の運休という突然の出来事で、2日目の日程を変更し、急遽バスで帰路につきましたね。無事に明石へ帰れるのか、様々なケースを想定し、手探りで対応したことが思い出されます。みなさんにとっても忘れ難い修学旅行だったのではないのでしょうか。

他にも、朝早くから練習してきた小学生駅伝大会が、中止になってしまいました。先生方も何とか走らせてやりたい。完全燃焼させたいと強く願っていました。そこで二見北リンピックマラソン大会をしましたね。

平日の朝の時間にもかかわらず、たくさんの保護者の方も応援に来ていただきました。

何事も思い通りになるような人生というのはありません。自分の努力が足りずに失敗に終わることもあります。そうではなく、今回のように新型のウイルス感染の世界的な広がりや、いろんなことが中止になり、積み上げてきたことが泡のように消えてしまうことがあります。世界に目を向ければ、戦争で親を失ったり、地雷で足を失ったりした子どもがたくさんいます。国を逃げ出さなければならぬ子どもも何万人もいます。その子どもたちにも夢や希望があったはずです。

私たちはこれから、絶対大丈夫だとは言えない時代に生きていくことになります。地球温暖化は確実に危険ラインを超えて、ますます進んでいます。経験したことの無いような巨大な台風で、百年に一度というような災害が毎年起きています。今回のコロナウイルスだけでなく、未知の病原菌が毎年のように世界を脅かしています。

皆さん、二見北小の目指す子ども像は「主体的に生きる子」です。困難に出会ったとき、あきらめてしまっただけでは何も解決しません。困難な事件の中でできることを考え、力を合わせて一歩でも前に進むことが大切です。ただ人に頼るのではなく、何が問題なのか、何を解決せねばならないのか、そのための方法は何かを、自分で考え、他の人の考えを聞い

て、正しいと思うことを、みんなで協力して実現していくことが大事です。それが自立した生き方です。そのような力をつけるために皆さんは、授業だけでなく様々な活動を通して力をつけてきたはずです。自分を信じて困難に負けずたくましく歩んでください。

ここまで歩んでこられたのは、これまで皆さんを愛し一生懸命に育ててくださった保護者の方々のお蔭です。そしていつも見守って下さった地域の方々、また温かく、時には厳しく叱ってくれた先生への感謝も忘れてはいけません。

卒業する皆さんに、私からはなむけの言葉を送ります。

「**You will never find a rainbow if you are looking down.**」

「下を向いていたら、虹を見つけないことは出来ない。」

という意味です。これは喜劇王チャーリー・チャップリンの言葉です。では中学校での皆さんの活躍を心からお祈りして、第四十八回卒業式の式辞といたします。

令和二年三月二十三日

明石市立 二見北小学校長 赤松 弘一